

NUHW

SPORT Magazine 002



ゼロから挑む
進み続ける戦士たち

平成25年4月。本学に硬式野球部が誕生した。関甲新学生野球連盟に加盟をし、春季・秋季の年2回のリーグ戦を戦っている。一部から三部で編成されており、一部と二部は6チーム、三部は7チームで構成されている。上位リーグへの昇格方法は、所属リーグで優勝し、上位リーグの最下位チームとの入れ替え戦に挑み、そこで勝ち越すことが条件となる。硬式野球部はその年の秋季リーグの三部からスタートした。

創部3年目の今年、二部リーグ優勝、さらに一部リーグ昇格を決めた硬式野球部。連盟の中では最も若いチームだが、なぜ勝ち上がることが出来たのか。ここまでの道のりと若きチームのこれからに迫りたい。

ゼロからのスタート

「正直これというものがまだつかめない、というのが正直ある」こう話してくれたのは、チームの初代主将を務める橋本慧選手（健康スポーツ学科3年）。2年前、創部後の初めての練習時に、監督から主将に指名された。それまでは、オリエンテーションで顔合わせをした程度だったため、「まさか自分になるとは」と考えていたようだ。

高校時代も主将を務めていたが、伝統や歴史といったカラーが確立されたチームと、真っ白なチームの違いに苦しんでいた。チームには先輩が築き上げたものがないために、毎日行うアップのメニューも一期生が考えて作った。技術面では、高校まで使用していた金属バットから木製バットに変わり、扱い方の違いに慣れず苦労した。また生活面では、授業の履修登録や実習の日程調整が上手くいかず、部活動に支障をきたすこともあった。何もわからないゼロからチームの土台を築き上げる難しさがインタビュから伝わってきた。同時に、そのチームの先頭に立つ橋本選手にはキャプテンシーを感じた。主将を中心に模索しながら問題を一つずつクリアすることは、野球部として高みを目指すこと。これは創部メンバーにしか出来ない経験ではないだろうか。

投手力

取材を行った中で、一部昇格への要因として必ず出てきた三文字。それは、投手力。「うちのピッチャー陣は、笠原をはじめ、



硬式野球部

一部昇格への道のりと

若きチームのこれからの迫る

「ゼロから挑む 進み続ける戦士たち」

文章：Takumi Aida

リーグでもトップレベルにあると思うし、やっぱりそこが一番大きかった」と主将は分析してくれた。また、チームの指揮官である佐藤和也監督（健康スポーツ学科教授）は「うちのチームは学年が揃って行く中で、打つほうも上がっていったけれども、最初に入學してくれたピッチャーの投手力が他の大学のピッチャーと比べると安定した力が発揮できる。それが二年、三学年と揃い、複数人がちゃんとしたピッチングが出来るようになってきて、そこは一部リーグにいてもまあまあやれるんじゃないかと思ってる」と期待を寄せている。



そのピッチャー陣を引っ張るのは、エースナンバーを背負う笠原祥太郎選手（健康スポーツ学科3年）。インタビュや取材が苦手な笠原選手だが、「自分がいつも一戦目で投げて、まずは勝たないといけない。勝たせるために試合を作らないといけない」と力強く答えてくれた。このとき、それまでとは違うエースの風格を感じ取られた。

CHALLENGE

CHALLENGE。他の大学とは違う取組みをいくつか行っている野球部のチームスローガンである。

まず、短時間で行われる全体練習。一体なぜなのか。そこには、自分自身で新しい野球の練習スタイルを作っていけるような野球部にしたいという監督の思いが込められていた。短い全体練習と主体的な個人練習を組み合わせることで、個々に足りない部分を補うことが出来る。このやり方は将来、指導者を目指している選手たちにとっては練習メニューの組み立てを考える事にも繋がる。

選手だけでなく、チームを支えるスタッフも増えている。その中には、なかなか結果が出せず学生コーチに回った選手がいることはあまり知られていないかもしれない。話をしてくれたのは3年生の内山大地くん。1年生の頃、遠征に行けないメンバーがグラウンドで練習をしていた時、コーチとして練習を見てくれる人がおらず、「自分が練習を見る立場に回りたい」と思うようになり、2年生の秋から正式に学生コーチに回った。さらに、内山くんは審判にも興味があり、「この大学から審判を輩出する道を作りたい」という高い志を持っている。現在、大学野球の公式戦の審判をし、今後は高校野球にも携わりたいと話してくれた。

また、新潟県全体の野球を盛り上げていきたいという思いから、小中学生を対象とした野球指導やメディアへの情報発信、スポーツ

メーカーとの情報交換などにも力を注いでいる。常に試合に勝つことを追い求めながら、これらの活動にも積極的に取り組んでいる野球部。チームスローガンであるCHALLENGEは、新潟医療福祉大学硬式野球部を象徴する言葉であると同時に、チームカラーになってきているのかもしれない。

野球部のこれから

一期生が入部し、約2年半の月日が経った。創部した頃に比べ、確実に一歩ずつ前へ進んでいる若きチーム。一部への昇格は大変喜ばしい結果であるが、選手たちは満足していない。一期生の目標は『選手権と神宮大会の出場』と掲げ、全国大会※に一期生が出場することで後輩たちは更なる高みを目指すことができる、と主将の目は力強かった。1、2年生が加わったチームは、96名と大所帯になってきた。そうなるレギュラー争いも激しくなってくる。出場機会が減ってきている3年生も増えている。「3年生が多いチームは強いし、今一番頑張らなきゃいけないのは3年生」と主将は冷静に語ってくれた。部長としてチームに携わる西原康行部長（健康スポーツ学科教授）は「野球部は今の3年生がゼロから作ったので、特に3年生は技術面だけでなく絶対的な意志や思いを持っている」と、高く評価していた。やはり、一期生への期待は大きい。

だからこそ、目標を成し遂げるためにも現状に満足せず、ここからさらなる飛躍が求められる。ここはゴールではなく、スタートラインなのである。ようやくスタートラインに立った硬式野球部の道のりは続く。

※年に2回開催。全日本大学野球選手権には関甲新学生野球連盟の一部リーグで優勝すると出場することが出来る。明治神宮野球大会には関甲新学生野球連盟の一部リーグで2位以内に入り関東大会へ出場し、2位以内に入らなければならぬ。

硬式野球部

・創部3年目、部員数96名
佐藤和也監督、大矢コーチの指導のもと本学硬式野球グラウンド・屋内野球練習場にて日々練習を行っている。



「執念で得た切符」

昨年の世界選手権の選考レースであった日本選手権は直前に自然気胸になってしまい棄権になり、惜しくも日本代表になれなかった。彼にとって辛く苦い経験になり、国際大会の出場は持ち越しとなった。昨年の悔しさ、そして大学4年最後の集大成として、かなり意気込んでいた。しかし、今年もユニバの選考レース直前に自然気胸になってしまふ不運に見舞われる。とにかく回復に時間を当てることしかできなかったが、本番では見事に泳ぎ切った。

今回の選考レースでは、50M・100M自由形と50M背泳ぎの3種目にエントリーした。自由形の準決勝前に、背泳ぎの予選があり、同着7位のためスイムオフに進んだ。結果2回のスイムオフを行ったが、背泳ぎでの決勝進出はならなかった。しかし、自由形では決勝に進み、体力的に厳しい戦いの中、見事ユニバシールド代表の切符を得たのであった。ここぞという時に、彼の土壇場での意地と勝負強さが出た。

インタビュー中、彼は質問に誠実に答えてくれていたが、感情はあまり表に出てこなかった。ただ、大きな想いが感じられ、意識せずともその気持ちを持ち続ける力、そして日本代表になってやるという執念を感じた。これこそが彼の強みなのではないだろうか。実習の忙しい学科に在籍しながら、勉強と水泳を両立できているのは、タイムマネジメントが上手いこともある。しかし、一度決めたからには妥協せずに最後まで追い込める力があるからだと感じた。

最後にユニバでの目標は、初の国際大会の雰囲気存分に味わいたいと語ってくれた。やっとの思いで掴み取ったチャンスを最大限に発揮してほしい。



松井 浩亮

理学療法学科4年
埼玉県出身 県立浦和高校 卒業

ユニバーシールド代表

文章：Kei Yoshida

「深みが出たプレー」

ユニバの代表を目標にやってきたというより、常に上を目指するために上手くなりたい。その結果が、実を結んだ。「自分はFWだからやはり点を取るのがすべて。だから人の何倍も練習をしてきただけで、たまたま選ばれただけ」と謙遜していたが、努力し続けることは容易なことではない。でも心を鬼にして自分を追い込めるのは、幼い頃から努力する環境に身を置いていたからではないか。女子サッカー部の秋山隆之顧問（健康スポーツ学科准教授）も、「美夕紀は得点感覚に優れ、何より常に頑張れる選手」と評価する。

彼女は、とても負けず嫌いで不言実行なタイプである。練習中からチームメイトに負けることを許さない。それは、試合でも一緒だ。でも、彼女は自分をまだまだと言う。「キャプテンとしてプレー中、球際の争いに対し、チームメイトに強くは言うが、でもそれ以上に自身が球際に対して、しっかりとる姿をプレーを通して見せなければならぬ」と答えてくれた。

なぜ、このように彼女は成長出来てきたのか？「特に監督から指示があるわけではないが、のびのびとプレーできたからこそ、味方を活かせるようになった。結果的に、自分のプレーも生きてくる。おかげでプレーの幅が広がった」と語ってくれたように、キャプテンとしてチームメイトに接することで、周囲に目を配ることができるようになったからだろう。

最後にユニバでの目標は、優勝と志高く掲げてくれ、持ち前の決定力の高さをゴールという形でチームの勝利に貢献してほしい。



高橋 美夕紀

健康スポーツ学科4年
福岡県出身 鳳凰高校 卒業

学生版オリンピックと言われるユニバーシールド大会。ユニバーシールド2015は、7/3~7/14 韓国光州で開催。

本学からは、水泳部の松井浩亮選手と佐藤綾選手、女子サッカー部の高橋美夕紀選手が選出された。

「運を引き寄せる力」

普段はどこにでもいそうな普通の女子大生、スポーツ選手に見えない印象である。そんな彼女は、今年の2月末まで、インフルエンザ、目の病気、肩の故障、食中毒・・・と不運が続いてしまった。

水泳は10月からシーズンが始まる。彼女は約半年間に不運が続く、このままではユニバの代表どころか、戦うことすらままならない状態だったので、厄払いに行くぐらいだった。こんな状態であったため、ようやくトレーニングができたのは3月からだった。水泳部の下山好監督（健康スポーツ学科教授）も、「ここまできたら、最後は少しごまかしながらやらなくては・・・」と内心思っていた。しかし、そんな中、彼女から厳しいトレーニングをやりたいと、ユニバ選考レースの2週間ほど前に言ってきたのである。本来は、本番前の2週間前から調整を始めるのがセオリー。しかし、彼女は1週間前まで追い込んで、ギリギリ間に合わせて本番に臨んだのであった。そして、本番ではベストのタイムを出して、見事ユニバーシールド代表の切符を手に入れた。

彼女はここぞというタイミングで集中することができ、オンとオフのスイッチの切り替えが上手なのではと感じた。下山監督は「彼女は勝負強さもあって、運も兼ね備えている」と表現するように、彼女は代表の切符を手元に引き寄せたのであろう。

最後にユニバでの目標は、大会を楽しみたいと笑顔で答えてくれ、数々の不運を吹き飛ばす勢いで大会を圧倒してほしい。



佐藤 綾

健康スポーツ学科3年
長野県出身 長野東高校 卒業

ボランティア精神を学ぶこととは？

Voluntary

陸上競技部

「土台を作る大切さ」

「Voluntary」とは「自発的であるさま、自由意思から出た」という意味である。陸上競技部は本学の陸上競技グラウンドでNUHW競技会を開催している。日々の練習に取り組みながら競技会の運営をしている陸上競技部の学生達にはいったいどのようなVoluntary精神があるのだろうか。

学生自身が行う競技会

6月最終週、陸上競技の日本選手権が新潟で初めて開催された。本学の陸上競技部からも2名の学生が出場した。全国レベルでも活躍する選手を多く輩出してきた陸上部は、本学の陸上競技グラウンドを使ってNUHW競技会も開催している。競技会は「自己記録の挑戦」をねらいに掲げ、本学の学生はもちろん、近隣の中学生、高校生さらには社会人や県外からの選手など百名以上の選手が参加する。

一般的な競技会の運営は地域の人が行っているが、NUHW競技会は学生が運営している。多くの参加者を集める競技会だが、選手たちは練習時間を割いて運営の時間を確保している。しかも、競技会の運営は、準備から当日の作業まで大変な労力がある。なぜ、わざわざ練習時間を削ってまで競技会の運営を行っているのだろうか？そして、学生は競技会を通じてどのようなことを学んでいるのだろうか。

競技会運営の役割

要因を探るべく、陸上競技部の丸山敦夫部長（健康スポーツ学科教授）、三宮博巳監督（健康スポーツ学科教授）、運営に携わる学生に話を伺った。競技会の意義について丸山部長は「学生が役割をきっちり果たし、責任を持って行うことが大切で、普段選手として参加しているが、自分達が測定や審判をすることでそういった大変さを知ること大切」と説明してくれた。当の学生も「実際に運営をやってみると大変で、いろいろな人に支えられて競技ができていく」と語っており、普段選手として参加しているだけではこういった感謝の気持ちは持てないだろう。また、三宮監督が「選手に対して走る、跳ぶ、投げるといったそういうチャンスを与える必要がある。それがこの新潟

医療福祉大学が開催しているメリットでもある」と話してくれたように違う側面も持っている。

この他にも、選手は競技会の違う側面を語ってくれた。それは近隣の中高生が競技会に出場することで選手の顔合わせの場にもなり、また、施設等を見ることがよって学校の宣伝にもなっているということだった。

このような競技会の様々な面は、言い換えれば競技会を通じた陸上部の地域貢献と言えるだろう。特に北区には公認の陸上競技場は本学にしかなく、地域にとっても大切な役割を担っているのではないだろうか。

学生が成長できる競技会

人・手間・時間のかかる競技会。そんな競技会だからこそ、監督は「競技会の運営は選手に思いやりがないとできない」と説明してくれた。一方、当の学生も「来てくれる人も本学の学生も気持ちよく記録を出せる運営をした」と語ってくれたように、監督の想いは確実に届いている。また、この言葉から学生自身も着実に成長しているのが、強く感じられた。

運営を通して感謝の気持ちや裏方の大変さを知ること、陸上部の学生はひとりの人間として成長できている。人としての成長が記録の向上を狙っていく上で土台となっているのであろう。つまり、土台ができていなければ、いくらきつい練習をしても記録の向上にはつながらない。だからこそ、監督は日ごろの練習から学生に対して「人間力の向上」を強調しながら指導している。

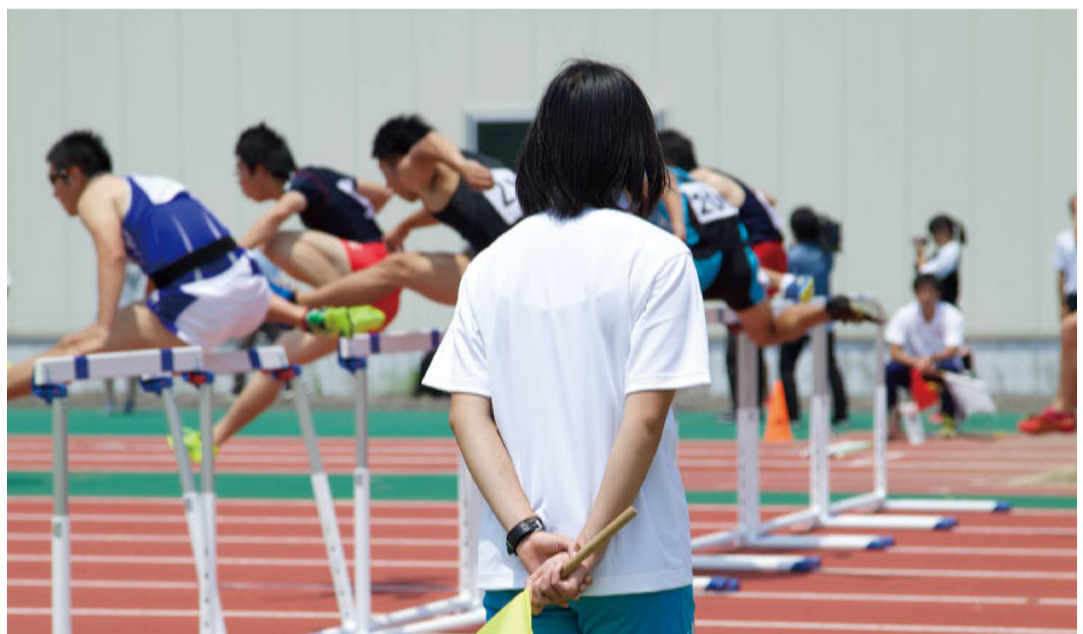
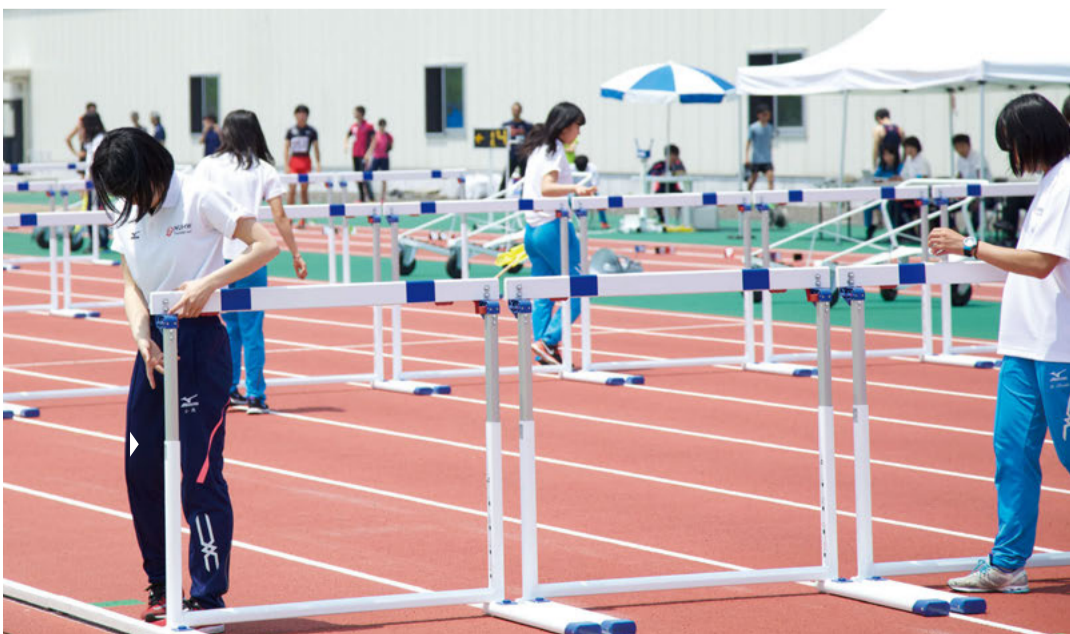
競技会の開催は、事前の準備から当日の運営、その後の記録申請等々、あげてみればやる事が多く、学生の負担になっている。しかし、学生は責任を持って運営に携わり、多くのことを学んでいる。競技会運営が大学ならではの部活動であり、教育活動なのだと言インタビューを通して改めて認識させられた。

競技会の運営はVoluntaryをとおして、人としての成長に励み、記録の向上に挑戦している陸上競技部。今後の競技会運営にも注目しながら、更なる活躍に期待したい。

競技会を通じた地域貢献と学生の成長

文章：Kazuki Sato

・創部10年目、部員数129名
丸山部長を含めた4名の指導者のもと本学の陸上競技グラウンドや屋内走路にて日々練習を行っている。



SPORT HOLIDAY

～BBQ編～

家にいたって 思い出はできない、 大学生の休日にBBQ!



SHIMAMI TRIPS

海辺の森でBBQ

今回私たちが提案する休日の過ごし方は『BBQ』この夏に、友人や家族など多くの人たちと思い出を作ってみましょう！BBQを通して、学生生活をもっと有意義なものにしていくきっかけになれば幸いです。大学生の思い出に大学の近くの島見という土地でBBQを楽しんでみてはいかがでしょうか！

文章：Ryota Sato

BBQ MUST ITEM

○BBQ グリル

これがないとはじまりません。持っていない場合はレンタルを有効活用しましょう。



○クーラーボックス

生ものを外に置いておくのは危険。必ず持参して保冷材や氷を入れておきましょう。

○タープやテント

熱中症を避けるために日よけの場所を確保しましょう。



○後片付けの道具

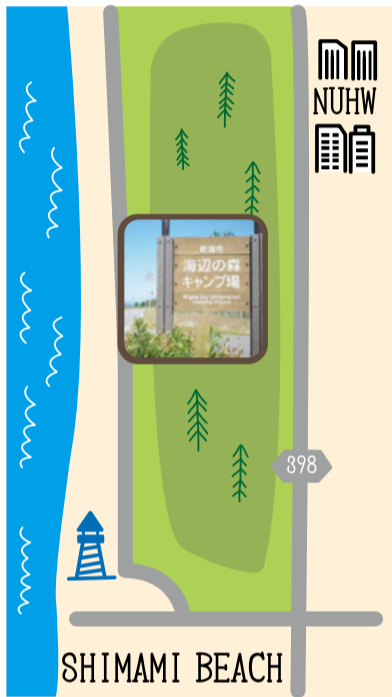
たわしや洗剤を持っていきましょう。レンタルした際は、使う前よりもきれいに！

○遊び道具

焼き上がりには時間がかかる。ボールやフライングディスクなどがあれば、待ち時間も退屈せずに楽しめます！

○炭（火おこしのコツ！）

1番下に新聞紙、その上に着火剤、その上に炭を置き、火をつけてから一気に煽ぎ酸素を送ることで、すぐに火をつけることができます。



海辺の森キャンプ場

島見浜海水浴場に近接する新潟市海辺の森キャンプ場。新潟医療福祉大学から最寄りのBBQスポット。水場やトイレ、管理棟にはシャワー室も完備し、BBQ用品のレンタルも可能。

新潟県北區島見町 1-135
TEL 025-255-3810

初級編

簡単に楽しめるオーソドックスなBBQ。費用は道具を持っている場合1人あたり約1000円で、道具のレンタルする場合はプラス500円ほど。BBQを始めるとき一番手間取るのは、炭おこし。簡単にできる炭のおこし方があります。

肉の量…男性1人あたり300g、女性は200gほどが目安。余った場合、焼きそばなどに活用。

野菜…脇役になりがち。買いすぎに注意しましょう。

飲み物…足りなくなる可能性が高いので多めに(1人約1.5ℓほど)買っておきましょう。



焼きそば…余った肉や野菜で調理可能。麺とソースを用意しておきましょう。

中級編

前日から料理の下ごしらえなどをするとちょっと手間暇かけたBBQ。前日に下ごしらえをする場合は、あらかじめメニューを決めておくことで当日の流れがスムーズになります。

○お勧めメニュー

串焼き…鶏肉、プチトマト、アスパラベーコンなどを串に刺し、焼きます。味付けは塩コショウだけでもおいしくいただけます。

缶バーベキュー…缶詰の上にチーズやバターをのせて炭の上で温めるだけ！



上級編

様々な道具を使って家では食べることができない料理を作るBBQ。中でもダッチオーブンは多種多様な使い方があり料理の幅が広がるのでとてもおすすめです

○ダッチオーブンを生かした料理

チーズの燻製…ダッチオーブんにスモークチップを置きその上に網を置きます。最後にチーズをのせれば準備完了です。あとはダッチオーブンを火にかけ5～10分ほどいぶせば完成です。

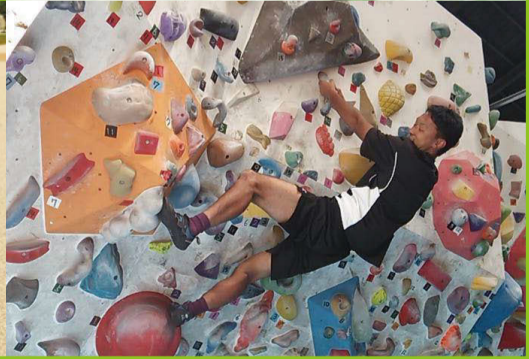


BBQには資格がある!

さらに上を目指す方にオススメ!!日本バーベキュー協会が発行している資格(初級、上級、バーベキューマスター)が3種類あります。学生でも取得ができ、BBQの正しい知識と焼き方を基礎から学ぶことが出来ます。大学生の休日にBBQ!新たな出会いや発見があるかもしれません!

日本バーベキュー協会: www.jbbqa.org/

SPORT PEOPLE OG・OB



学生の今だからこそエネルギーをたっぷり込めることはたくさんある。部活、サークル、趣味、アルバイト、ボランティア:何に取り組むのかは自由だ。それらのことに対して、全力で取り組むことで多くのことが得られるだろう。大学生としての今に全力を尽くすことが、将来の自分を支える軸になるということを、樋口さんから教えてもらった。

「一回ゼロに出来る感じがしますね」平日には多くて二日、休日には長いときで9時から17時まで一日中行うこともあるという。学生時代から続けるテニスは、社会で生きる今を精進から支え、仕事への活力の源になっている。部活、テニスコーチのアルバイト、友人との交流をはじめ学生時代に全力でぶつかったからこそ、身についた意識が、自ら行動を起こす力や、困難の中にも楽しみを見つめる力、楽しさを人と共有できる巻き込む力を生み出し、今に活かされていると感じた。

「学業での目標はもちろん頑張りたいですが、それ以上に学生の今しかできないこと、学生だからこそ使える時間を思い切り使いたいです。」

そう述べたのは、健康スポーツ学科四期生の樋口巧紀さん。大学在学中にはテニス部に所属し、ダブルスで全日本インカレ出場を果たした。卒業後は地元で貢献したいという思いから五泉市のニット工場で働いている。今回は樋口さんから「全力で取り組むことの大切さ」を学ぶ。

一秒も無駄にしたいくない

「一秒も無駄にしたいくない」学生時代樋口さんはそう感じていたという。「目的地があるものに対して、エネルギーが出てくるんですよ」と語る樋口さんにとって、目的は学園祭や大会などの非日常的なイベントだけではない。日常の中にある部活動も大切な目的地、イベントの一つだった。「みんなが集まる部活は週に一回、そのあとご飯を食べに行くっていうのを含めて一つのイベントでした。」

何となく過ぎてしまっている日常にこそ、エネルギーを積み込むことのできる何かや、人と共有できる楽しさが詰まっているのかもしれない。

「全力で取り組むことの大切さ」

学生時代は特に部活にエネルギーを注いだという樋口さん。部活をエネルギーのつぎ込める場にしたのは、彼自身だった。入部当初から、学連への登録作業など、公式試合参加の道を自ら切り開いた。ペアとなる後輩の入部をきっかけに大会に参加し、のちに全日本インカレ出場を果たすこととなる。部活を楽しみながら結果を出すことができたのは、日常にも全力を尽くすことができていたからだろう。「一秒も無駄にしたいくない」その思いが、やりがいを見出し、エネルギーを積み込める場所を自分で作る原動力となっていた。

今を支えるもの

樋口さんは社会人となった今も趣味としてテニスを続けている。「休みの日に一日好きなことができる、気持ちがいいからできる。一週間やってきた疲労とかそういうのが



樋口 巧紀
KOKI HIGUCHI

新潟県五泉市出身。2013年健康スポーツ学科卒業。在学中はテニス部部長を務め、ダブルス全日本インカレ出場、北信越インカレ(春本戦)3連覇を果たす。現在は五泉市のニット工場に務めている。

文章：Mami Sato

SUMMER EVENTS OF NIIGATA

皆さんはもう夏休みの予定は立てましたか？夏と言えば海、花火、かき氷、バーベキューなど…夏のイベントはわくわくするものばかり。夏休みが長いので、たくさんのイベントに参加できるのも大学生のいいところ！今回は定番のイベントから、珍しいイベントまで様々なものを紹介しています。県外のイベントもいろいろ、新潟でもこんなに楽しめる！県外出身で新潟に詳しくない方はもちろん、新潟出身の方にも今年の夏休みの計画を立てる参考になればと思います。

文章：Haruka Sakurazawa

うおぬま 夏の雪まつり

魚沼市 大湯公園 交流センターユビオ

7/25 (Sat) 26 (Sun)
10:00 - 16:00



真夏に雪?! 雪山でのそり遊びや E ボート体験、ご当地グルメなど。普段体験できないイベントが盛りだくさん! 遊んだあとは近くの温泉でゆったり過ごすのも良いでしょう。真夏の暑さを吹き飛ばすこの場所で夏休みを始めるのもいいかもしれませんね!

ぎおん柏崎まつり 海の大花火大会

柏崎市 みなとまち海浜公園周辺

7/26 (Sun)
19:30 - 21:10



海を舞台にした広い会場で行われる海の花火大会。海面に映るスターマインは 3D 映画の様な迫力と大パノラマのスケール感です。名物の「尺玉 100 発一斉打ち」は柏崎でしか見ることができません! 暑い夏に、涼しい潮風を受けながら花火を観るなんていいかもしれません。

長岡まつり 大花火大会

長岡市 信濃川河川敷長生橋下流

8/2 (Sun) 3 (Mon)
19:25 - 21:10



日本三大花火といわれる長岡花火。約 5 分間で 2000 発の花火が長岡の夜空に輝くフェニックスが見所です! 他にもワイドスクリーンの全長 400 メートル以上の大型花火、「天地人花火」は視界にも写真にも納まりきらないほどの迫力。新潟に住んでいるなら一見の価値あります!

全日本丸太早切大会

長岡市みしま体育館 駐車場 特設会場

8/16 (Sun)



のこぎりを使い二人一組で丸太を切る大会。参加料は無料! 優勝者には三島のお米・地酒・お味噌など、一年分が!! 優勝を逃しても全員に参加賞もあります! 丸太切りの早さを競って汗を流しませんか?

片貝まつり

小千谷市片貝町三之町浅原神社裏山

9/9 (Wen) - 10 (Thu)
19:30 - 22:20



片貝の人たちは子どもが生まれる、結婚する、成人するなど、人生の節目に花火を打ち上げるのだそうです。花火大会という位置づけではなく神社への奉納花火です。ギネスブックにも紹介された正四尺玉は圧巻です!

コスモスまつり

長岡市 越後丘陵公園

9/19 (Sat)
- 10/25 (Sun)



辺り一面に広がる約 30 万本のコスモス。赤や白、ピンク、淡くやさしい黄色のコスモスも見ることができます。友達と、カップルで、思い出の一枚を撮りにお出かけしてみるのはいかがでしょうか?

GO FIGHT! feat. YOU! NUHW SPORT 応援 SCHEDULE GO FIGHT! feat. YOU!

クラブ名	日程	大会名	場所
水泳部	9月4日(金) ~ 9月6日(日)	日本学生選手権 水泳競技大会	古橋廣之進記念浜松市総合水泳場(静岡県)
	9月23日(水)	オープンウォータースイミング ジャパンオープン 2015 館山	館山市北条海岸(千葉県)
男子 サッカー部	8月~12月	2015インディペンデンス リーグ北信越	北信越各地
女子 サッカー部	9月下旬	第37回全日本女子サッカー選手権北信越大会	北信越各地
男子バスケットボール部	9月下旬	新潟選手権大会	新潟県内
女子バスケットボール部	9月下旬	新潟選手権大会	新潟県内
硬式野球部	9月~10月	関甲新学生野球連盟 秋季1部リーグ	上武大学野球場 白鷲大学野球場 他
陸上競技部	9月11日(金) ~ 9月13日(日)	日本学生陸上競技選手権大会	ヤンマースタジアム 長居(大阪府)
	9月26日(土)	第16回 NUHW 競技会	本学陸上競技グラウンド
ダンス部	8月5日(水) ~ 8月8日(土)	全日本高校・大学 ダンスフェスティバル	神戸文化ホール(兵庫県)
女子バレー部	9月19日(土) ~ 9月20日(日)	秋季信越大学リーグ戦	長野県上田市

※上記の試合内容は変更の可能性があります。詳細については各大会主催団体にお問い合わせください。また、NUHW SPORT MEDIA(ブログ)でも随時大会スケジュールを更新致します。

編集後記

大学生のオリンピックと言われるユニバーシアードに、本学の水泳部から松井浩亮選手と佐藤綾選手、女子サッカー部から高橋美夕紀選手が選ばれました。ユニバーシアード日本代表として、また新潟医療福祉大学の代表として自分の力をフルに出して頑張ってもらいます。さらに、2020年には東京オリンピックが開催されます。本学からユニバーシアードの代表選手が選出されたように、もしかすると本番の舞台に本学の学生やOB・OGが出場するかもしれませんね。

みなさんの中には、スポーツ以外で活躍の場所を見出す人もいるでしょう。各々が行っている本学での活動が、この先の自分の活躍の場に繋がったりするかもしれません。大学での講義やサークル、アルバイトなどで様々な経験を積むことも、大学生活において重要な要素であると思います。ユニバーシアードに選出された選手達と同様に、私たちも今できることをしっかりと頑張っていきたいですね。今回の NUHW SPORT Magazine が大学生生活を充実させ、そのやる気を再度高めるきっかけとなれば幸いです。(史)

NUHW
SPORT
Magazine

発行所 NUHW SPORT MEDIA
発行 年4回
nuhwsportmedia@gmail.com